

イザというとき慌てない! 「男と女の快護学」

介護保険入門 上手に使うカندوقろ 〈3〉

知らないと損をする! 「地域包括支援センター」

おちとよこ

高齢者介護、医療、福祉、教育、育児、暮らし、それにまつわる家族、女性問題を中心に、新聞、雑誌等に執筆のかたわら、講演やテレビに出演。国、自治体委員を歴任。

主な著書に「一人でもだいじょうぶ〜晴ればれ冬じたく〜」日本評論社、「第3版・介護保険上手に使うカندوقろ」入院・介護SOS創元社、「シングル介護」NHK生活人新書 他。また「生活図鑑」「あなたの小さかったとき」「ただいまお仕事中」福音館書店、「おばあちゃんのさがしもの」岩崎書店など、絵本、児童書も多数。

「ひと駅を歩いて拾う春の色」、前号の悠悠川柳ではありませんが、ちょっと歩いてみるだけで発見があるものです。言い換えれば、それだけ私たちは知らずに暮らしていることも多いもの。今回ご紹介する「地域包括支援センター」もまさにその一つ。

ご存知ですか? イザというとき、介護保険をフル活用するためにも欠かせない場所。この機会に理解を深め、お散歩がてら出かけてみませんか、きっと発見があります。

●「地域包括支援センター」って何?

「チイキホウカツ...?」、「初めて聞いた」という読者も多いことでしょう。それもそのはず、介護保険の新組織として2006年の4月から市町村ごとに急ピッチで整備された新参者。すでに全国津々浦々、中学校区程度に1つずつ設置されていますが、まだまだ上手く活用されていません。

地域包括支援センターは、通称「包括」と呼ばれ、その役割を一言でいえば、「高齢者のよろず相談&問題解決窓口」。具

体的には図にあるような、

- 1 総合相談支援
- 2 介護予防ケアマネジメント
- 3 包括的・継続的ケアマネジメント
- 4 虐待防止や権利擁護事業

が活動の4本柱。「加齢で虚弱になったり要介護になっても、住み慣れた場所(地域)で、その人らしい尊厳ある生活が続けられるよう、高齢期の暮らしをサポート(包括的)にサポートして支える(支援する)拠点(センター)」です。

●専門3職種を「マイサポーター」に

こうした役割を遂行するために包括には、図のような3専門職が配置され、相談や支援、地域の情報収集やネットワークづくりを行っています。まさに高齢期の医療、介護、福祉、保健のトータル情報とサービスの宝庫。利用しない手はありません。

といつても、包括は住んでいる住所で、小学校のように担当が決められています。親御さんや自分の「担当包括」をご存知ですか? お住まいの市町村へ問い合わせれば、すぐ分かります。

包括は、介護保険の相談や手続きだけでなく、地域情報のカフェやライブ러리コーナーを併設したり、ボランティア活動や一般高齢者向けのジムや趣味講座、健康イベントなど、様々な事業を展開しています。元気なうちから興味のあるものに参加し、包括を活用していると、自然に職員とも顔馴染みになり、イザというときも気軽に相談できるので心強いというものです。馴染みの専門職を「マイサポーター」にできれば鬼に金棒という訳です。

●「当たりハズレ」のリスクと裏技

ただし、雨後の筍で設置された包括は、残念ながら力量にかなり差があります。肝心の自分や親御さんの担当包括はどうでしょう。

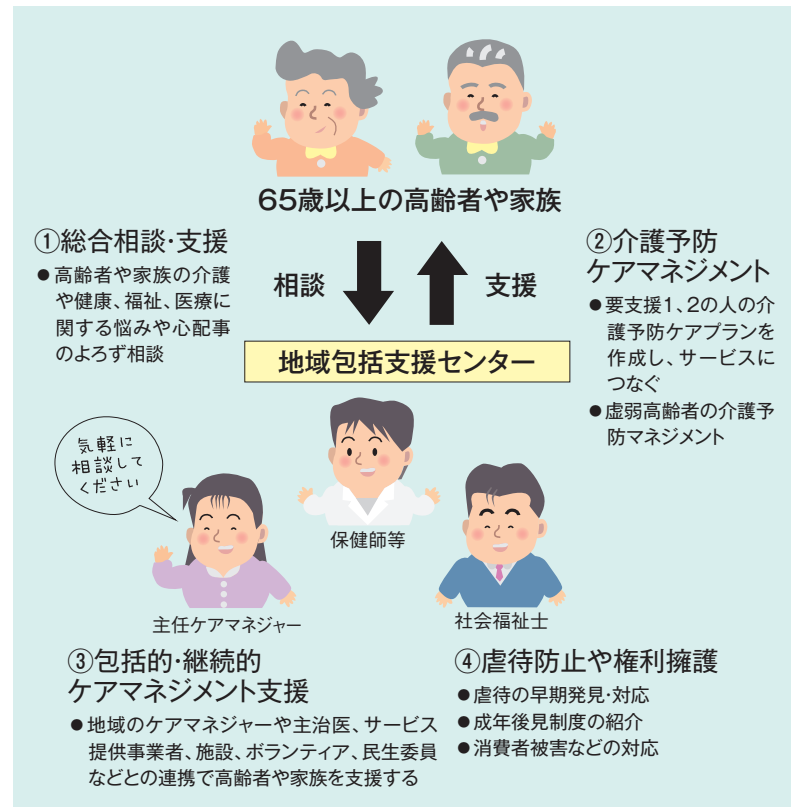
イザというとき「使えない...」では、他の包括を選べないので困ります。それを見極めるには、ちょっと早めに、「二人暮らしの母が最近モノ忘れで...」「父親の食が細くなつて心配」など、気軽に相談して様子を見ることです。

もしも結果が思わしくないときは、苦

情は市町村が受け付けますが、諦めず他の職員にも当たってみましょう。どんな組織にも必ず有能な人、相性の合う人が一人くらいはいるもの。見つければしめたものです。

また包括には、住民参加の「運営協議会」の設置が義務づけられています。地域住民として活動に参加して、いい意味で評価、監督、協力、応援して育てていくという手もあります。ただしイザとなつてからでは間に合わないの、「善は急げ」ということです。(次回は、介護サービス利用のツボをお届けします)

・快護のポイント
「『包括』は地域担当制。ちょっと早めに利用しながらマイサポーターに!」



地域包括支援センターの役割 おちとよこ著『入院・介護SOS』より